

知的障害者の舞台芸術活動とその支援

日時 2020年2月7日(金)9:30~15:30
場所 神戸大学百年記念館六甲ホール
参加費 無料

市バス36系統「鶴甲団地」行きに乗り、「神大文・理・農学部前」下車。構内に入り奥に進む。
* 構内に駐車場はございません。

2018年に障害者文化芸術活動推進法が制定されるなど、障害者の文化芸術活動への注目度が高まっています。東京オリンピック・パラリンピックの文化祭典で障害者の文化芸術活動への期待感も高まっており、各地での多様な実践に力が入っています。韓国でも、平昌オリンピック・パラリンピックの文化祭典は、障害者の文化芸術活動を盛り上げました。その後も障害者が表現者となったさまざまな文化芸術活動が展開しており、日本と同様の法律の制定に向けた運動も生まれています。

今回のシンポジウムでは、こうした動きを背景に、特に知的障害者の舞台芸術活動に焦点を当てます。実際の舞台パフォーマンスを鑑賞し、表現者らの声を聞くとともに、こうした活動が文化芸術一般にどのようなインパクトを与ええるか、さらには社会に対してどのようなインパクトを与ええるか、といったテーマで考察を深めます。



午前(9:30~11:30)
劇団ラハブ公演
表現者らの声(韓国)

午後(12:30~15:30)
あんだんてKOBE公演
多田駿介公演
表現者らの声(日本)
シンポジウム

登壇者

劇団ラハブ(韓国知的障害者ミュージカル)
あんだんてKOBE(音楽活動支援)
多田 駿介(KUPI学生、マリンバ演奏)
禹 周亨(韓国ナザレ大学・法学)
山岸 淳子(日本フィルハーモニー交響楽団)
森田 かずよ(女優・ダンサー)
稲原 美苗(神戸大学人間発達環境学研究科)

森田 かずよ

義足の女優・ダンサーとしてフリーランスとして活動中。文化庁の障害者文化芸術活動推進政策にも関与。

山岸 淳子

日本フィルマネジメント・スタッフとして「落合陽一×日本フィルプロジェクト」等を担当。著書『ドラッカーとオーケストラの組織論』(PHP新書)。

劇団ラハブ

韓国ナザレ大学の知的障害学生の課外活動として発足。保護者の尽力のもと、幅広い舞台芸術家がボランティアとして協力し脚光を浴びる。平昌オリンピック・パラリンピックの文化祭典での公演など、継続的な活動を展開。

あんだんてKOBE

音楽療法士などが支援する、知的障害者の音楽サークル。舞台に立つと、まったく表情が変わる団員たちの様子に感動して、舞台での演奏にこだわった活動を展開している。

多田 駿介

小学生の頃からマリンバを始め、各所で演奏し喜ばれている。今年度は、神戸大学聴講生として「学びの楽しみ発見プログラム(KUPI)」に参加している。